



平成27年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年12月9日

上場会社名 日本ビューホテル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6097 URL <http://www.viewhotels.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石井 一男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 矢島 学 TEL 03-5828-4429 (代表)
 四半期報告書提出予定日 平成26年12月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年4月期第2四半期の連結業績（平成26年5月1日～平成26年10月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年4月期第2四半期	9,005	—	392	—	591	—	356	—
26年4月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 27年4月期第2四半期 355百万円 (ー%) 26年4月期第2四半期 ー百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年4月期第2四半期	37.40	36.98
26年4月期第2四半期	—	—

(注) 1. 平成26年4月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年4月期第2四半期の数値および対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 当社は、平成26年7月23日に東京証券取引所市場第二部に上場しているため、当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から当第2四半期連結会計期間末日までの平均株価を期中平均株価とみなし算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年4月期第2四半期	22,840	13,832	60.6
26年4月期	21,953	13,148	59.9

(参考) 自己資本 27年4月期第2四半期 13,832百万円 26年4月期 13,148百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年4月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年4月期	—	0.00	—	—	—
27年4月期（予想）	—	—	—	16.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成27年4月期の連結業績予想（平成26年5月1日～平成27年4月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,367	4.1	824	38.8	986	27.4	600	43.5	62.72

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 平成27年4月期の業績予想の1株当たり当期純利益は公募増資分（125,000株）、ストック・オプション行使分（72,000株）を含めた期中平均株式数により算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 4「サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年4月期2Q	9,628,425株	26年4月期	9,431,425株
② 期末自己株式数	27年4月期2Q	一株	26年4月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年4月期2Q	9,534,566株	26年4月期2Q	9,431,425株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府や日銀による経済・金融政策により企業収益や雇用情勢の改善などが見られ、国内景気は緩やかな回復傾向を続けました。一方、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動、今夏の天候不順、円安による原材料価格の上昇など、依然として先行きの不透明な状況が続いております。

ホテル業界におきましては、政府の観光立国推進に向けた政策や円安を背景に、訪日外国人客数の増加による宿泊需要の伸びがありますが、消費税率の引き上げからの需要の回復が鈍いことや、今夏の天候不順、光熱費等コストの上昇もあり未だ経営環境は厳しい局面にあります。

このような経営環境のもと、当社グループは、中期経営計画において、当社グループの基本的な経営戦略を1)サービスの向上、2)「食のView」・「味のView」の地位確立、3)施設の改装の3つとして定め、当社グループの堅固な成長基盤の構築を目指し経営に取り組んでまいりました。

また、経費につきましては、原材料や光熱費の高騰が続きましたが、販売費及び一般管理費全般に渡り低減に努めてまいりました。

この他、当社グループの一部施設について、原子力発電所事故による風評被害に伴う逸失利益に対する補償金229百万円を営業外収益として計上いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は9,005百万円となり、営業利益は392百万円、経常利益は591百万円、四半期純利益は356百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

セグメントの 名称	売上高	営業利益又は損失（△）	減価償却前営業利益(*)
	当第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
ホテル事業	7,226	173	659
施設運営事業	864	△8	1
遊園地事業	966	224	259
合計	9,056	389	919
調整額	△51	3	3
連結数値	9,005	392	923

(*) 減価償却前営業利益＝営業利益又は損失＋減価償却費

①ホテル事業

ホテル事業におきましては、秋田ビューホテルの12階レストランフロアを全面改装し、平成26年5月にスカイグリルブッフエレストラン「空桜～SORA～」としてオープンいたしました。浅草ビューホテルでは、ブライダルスペースや3階宴会場の改装、神前式場のリニューアルオープンなどを実施いたしました。また、成田ビューホテルの客室69室とチャペルの改装、高崎ビューホテルのチャペルの改装などを実施し、顧客満足度の向上を図っております。

これらの結果、売上高は7,226百万円、営業利益は173百万円となりました。

②施設運営事業

施設運営事業におきましては、ぎょうけい館やホテルプラザ菜の花の宿泊プランの充実などにより営業力の強化を図りました。また、平成26年6月に東京都青梅市にある「おくとま路」（総客室数18室）を取得し、館内改装の後、平成26年7月にリニューアルオープンいたしました。「おくとま路」では平成26年9月に大浴場を温泉にするなど、更に顧客満足度の向上を図っております。

これらの結果、売上高は864百万円、おくとま路の開業および改装費用の計上などにより営業損失は8百万円となりました。

③遊園地事業

那須りんどう湖 LAKE VIEWでは、平成26年4月にオープンした新アトラクション「目指せ！征服王」の宣伝告知や各種イベントの充実により集客力の向上に努めてまいりました。ピークシーズンである夏季の天候不順や秋季の台風、原子力発電所事故による風評被害からの団体客の回復の弱さなど、集客への影響がありましたが、ナイトイルミネーションなどの話題性のあるイベントの実施により集客力の向上を図っております。

これらの結果、売上高は966百万円、営業利益は224百万円となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産

当第2四半期連結会計期間末における資産の合計は、22,840百万円（前連結会計年度末21,953百万円）と、887百万円増加いたしました。

うち流動資産は、4,334百万円（同4,116百万円）と、218百万円増加いたしました。これは、主に現金及び預金や未収入金の増加によるものであります。

固定資産は、18,505百万円（同17,836百万円）と、669百万円増加いたしました。これは、主に浅草ビューホテル、成田ビューホテルおよび秋田ビューホテルの設備投資並びにおくたま路の取得による固定資産の増加によるものであります。

②負債

当第2四半期連結会計期間末における負債の合計は、9,007百万円（前連結会計年度末8,804百万円）と、203百万円増加いたしました。

うち流動負債は、3,595百万円（同3,649百万円）と、53百万円減少いたしました。これは、主に未払法人税等や割賦未払金の減少によるものであります。

固定負債は、5,411百万円（同5,154百万円）と、257百万円増加いたしました。これは、社債や割賦による未払金が減少し、一方で、長期借入金が増加したことなどによるものであります。

③純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産の合計は、13,832百万円（前連結会計年度末13,148百万円）と、683百万円増加いたしました。これは、主に四半期純利益や新規上場に伴う公募増資を実施したことによる資本金および資本準備金の増加によるものであります。この結果、自己資本比率は、60.6%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年11月28日の「平成27年4月期第2四半期（累計）業績予想及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）および「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文および退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務および勤務費用の計算方法を見直した結果、割引率の決定方法について、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率を使用する方法から、退職給付の支払見込期間および支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

なお、この変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,809	2,858
売掛金	666	684
貯蔵品	190	190
繰延税金資産	155	131
その他	295	470
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	4,116	4,334
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,299	9,871
機械装置及び運搬具（純額）	257	271
工具、器具及び備品（純額）	494	634
土地	5,891	6,006
建設仮勘定	173	22
その他（純額）	0	0
有形固定資産合計	16,117	16,806
無形固定資産		
借地権	1,380	1,380
その他	45	40
無形固定資産合計	1,425	1,420
投資その他の資産		
投資有価証券	14	14
長期貸付金	94	94
繰延税金資産	192	189
その他	100	86
貸倒引当金	△107	△105
投資その他の資産合計	293	278
固定資産合計	17,836	18,505
資産合計	21,953	22,840

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	420	497
1年内償還予定の社債	165	165
1年内返済予定の長期借入金	1,078	1,133
リース債務	18	27
未払金	1,208	1,030
未払法人税等	187	88
未払消費税等	142	114
賞与引当金	194	204
ポイント引当金	37	36
その他	196	297
流動負債合計	3,649	3,595
固定負債		
社債	748	666
長期借入金	3,093	3,522
リース債務	48	95
退職給付に係る負債	564	545
資産除去債務	50	50
長期未払金	468	356
その他	179	174
固定負債合計	5,154	5,411
負債合計	8,804	9,007
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,579	2,743
資本剰余金	1,499	1,663
利益剰余金	8,984	9,341
株主資本合計	13,063	13,748
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	0
退職給付に係る調整累計額	84	83
その他の包括利益累計額合計	85	84
純資産合計	13,148	13,832
負債純資産合計	21,953	22,840

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)
売上高	9,005
売上原価	2,249
売上総利益	6,755
販売費及び一般管理費	6,362
営業利益	392
営業外収益	
受取補償金	229
その他	46
営業外収益合計	275
営業外費用	
支払利息	51
株式公開費用	19
その他	6
営業外費用合計	76
経常利益	591
特別利益	
固定資産売却益	0
特別利益合計	0
特別損失	
固定資産除却損	127
特別損失合計	127
税金等調整前四半期純利益	464
法人税、住民税及び事業税	80
法人税等調整額	27
法人税等合計	108
少数株主損益調整前四半期純利益	356
四半期純利益	356

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	356
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	0
退職給付に係る調整額	△1
その他の包括利益合計	△0
四半期包括利益	355
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	355

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年5月1日 至 平成26年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	464
減価償却費	530
受取利息及び受取配当金	△1
支払利息	51
固定資産除却損	127
受取補償金	△229
売上債権の増減額(△は増加)	△17
たな卸資産の増減額(△は増加)	△0
仕入債務の増減額(△は減少)	77
その他	20
小計	1,022
利息及び配当金の受取額	1
利息の支払額	△50
補償金の受取額	111
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△178
営業活動によるキャッシュ・フロー	906
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△1,260
有形固定資産の除却による支出	△88
その他	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,349
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	1,000
長期借入金の返済による支出	△515
社債の償還による支出	△82
株式の発行による収入	255
ストックオプションの行使による収入	72
割賦債務の返済による支出	△220
その他	△16
財務活動によるキャッシュ・フロー	492
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	49
現金及び現金同等物の期首残高	2,809
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,858

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成26年5月1日至平成26年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル	施設運営	遊園地	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,207	833	964	9,005	—	9,005
セグメント間の内部売上高又は振替高	18	31	1	51	△51	—
計	7,226	864	966	9,056	△51	9,005
セグメント利益又は損失(△)	173	△8	224	389	3	392

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。